

ターンテーブルアキュライザーの活用(6)

一回転数との関係

1. 始めに

前報(5)までは 33 と 1/3 回転盤を主にターンテーブルアキュライザーTACU-1 の効果を調べてきましたが、45 回転盤や 78 回転盤でのターンテーブルアキュライザーTACU-1 の効果の確認をいたします。

2. ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴方法

アナログプレイヤーは、78 回転まで再生可能な ThorensTD124 を使用し、下記の盤を使用します。

78 回転盤

ウルトラアートレコード UA1004

Oh lady be good 他

小川理子他

45 回転盤

ACCENTUS MUSIC KKC 1171/3

スメタナ わが祖国

ヤクブ・フルシャ指揮バンベルク交響楽団

SOMETHIN'COOL SCLP-1055

ミスティ他

TSUYOSHI YAMAMOTO TRIO

東芝レコード TP-1117 (ドーナツ EP 盤)

日本の歌 (女ひとり他)

デューク・エイセス

3. ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴結果

78 回転盤は、RIAA、正相、第 4 時定数 High で、48 回転盤のわが祖国は、RIAA、正相、第 4 時定数 High で、ミスティは、DECCA、逆相、第 4 時定数 High で、デューク・エイセスは、EMI、逆相、第 4 時定数 High で、それぞれ TACU-1 のあるなしで聴いていきます。
デューク・エイセスのドーナツ盤では、ドーナツ盤アダプターと TACU-1 の比較になります。



78回転盤は、TACU-1を使用しますと、一聴してピアノが澄んでアタックの切れがよくなるのが分ります。そしてドラムスやベースやギターのピックの一音一音の滲みがなく、クリアーになります。本盤の試聴報告は[ディスコグラフィ](#)
[\(2022No.185\)](#)で報告済ですが、その時の印象はTACU-1の要素が加わったものであることが、改めて明らかになりました。

わが祖国は、お馴染みのモルダウを聴きました。木管と弦が奏でる抒情豊かなメロディから金管の咆哮を交えた総奏までダイナミックな表現を要求される曲ですが、TACU-1を適用すると、細やかな抒情性から、密度の高い重量感に富んだ場面まで、本来のバンベルク響の演奏が再現されたかのようです。プロムシュテットが率いて来日し、ブルックナーの4番を演奏したときの衝撃を思い出させてくれました。

ミスティは、これも78回転盤と同様、ピアノが澄んでアタックの頭が滲まず、余韻がしっかり聴き取れます。そしてドラムスやベースの一音一音の滲みがなく、クリアーになることも同様に、うるささがなくなります。

デューク・エイセスは、TACU-1 が盤上に接触しないので効果はないものと予想していましたが、コーラスのハモリがよくなり、ソロボーカルのヴィブラートやバックの伴奏が鮮明になりました。

以上、ある意味、通常の 33 回転盤より効果が分かりやすい局面がありましたが、回転数が上がるとスピンドルの軸の振れや盤の振動も強くなりますので、以上の結果は納得できます。

4. まとめ

78 回転盤と 45 回転盤で TACU-1 の効果を認めました。

以上